

令和5年度 第1回浜田市総合教育会議議事録

日時 : 令和5年5月10日(水) 15:00~16:22
場所 : 庁議室
構成員 : 久保田市長 砂川副市長
岡田教育長 杉野本委員 花田委員 岡山委員 倉本委員
事務局 草刈教育部長 藤井教育総務課長(欠) 山口学校教育課長
鳥居学力向上推進室長

議事

- 1 市長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

1 市長あいさつ

草刈部長 時間が参りましたので、令和5年度第1回浜田市総合教育会議を開催する。

久保田市長 開会にあたり、久保田市長より挨拶をお願いします。

久保田市長 令和5年度第1回の総合教育会議を開催させていただきたいと思う。

久保田市長 本日のこのレジュメにもあるが、令和4年度の教育課題に関するデータを基にその振り返りを行うとともに、今後どのような課題に取り組むかについて協議、意見交換をさせていただければと思う。

久保田市長 実は私の方から教育委員会の方にも話をして、この総合教育会議の運営の仕方についてももう1回考えてくださいというお願いをした。やはり年度初めに、昨年1年間どうだったのか、今、浜田市の教育分野における色々な数字、それから課題等がどうなのかをまずもって整理してもらって、その上で今年度どういったことに取り組むかということが必要ではないかということを行った。

久保田市長 とはいえ4月にやるとなるとメンバーも変わったりするので連休明けになったが、今日は第1回目ということで、令和4年度の振り返りと、足元の色々なデータを見ながら今後についてもお話をさせていただきたい。

久保田市長 その後、これを踏まえて、年に2回になるのか3回になるのか

分からないが、色んなテーマで、実際に現場に出かけるというケースもあるかもしれないし、そういったことでやっていきたい。

まず年度初めについては、そういった振り返りと今年度どうするかということを考える機会にしたいと思い、今回このような時期に開催をさせていただくということになったところである。

よろしく願います。

草刈部長 本日、傍聴者はおられないことを報告する。

この会は市長が招集して進行することになっているため、以降の進行については市長に願います。

久保田市長 承知した。今日は傍聴の方はおられないとのことだった。

今日初めての委員はいらっしゃるか。おられたらせっかくなので一言ご挨拶いただけないか。

倉本委員 昨年 11 月に辞令をいただき、教育委員を務めている倉本という。市長からは、学力向上を何とかするようと言われていたが、中々難しいなと正直な感想として思っている。また色々な話が聞けたらと思っている。よろしく願います。

久保田市長 よろしく願います。

2 協議事項

久保田市長 それではレジュメに沿って始めたいと思う。

令和 4 年度の振り返りについて意見交換・協議を行いたいと思う。

資料の説明をしていただき、その後ご質問をお受けするという格好で進めたいと思う。それでは説明の方をお願いする。

岡田教育長 それでは、全般にわたっているので私から一括して説明をする。なお教育委員会は様々な教育課題があるが、今日は学校教育に絞ってということで、浜田市の状況について全体の様子が俯瞰できるようなデータを用意してご説明したいと思う。

資料が 2 段になっているが、右の上にページ数が書いてあるのでこちらをご覧いただきたい。

最初に 1 ページに、浜田市の児童生徒数の推移について、平成 17 年の市町村合併の後、5 年ごとの数字を追っている。なお令和 7 年、令和 12 年は推計値である。

平成 17 年当時、中学校、小学校で 5,000 人を超える子どもたちがいた。

現在この表の中で一番近いのが令和 2 年ということで、3700

人程度ということだが、現在の令和5年のデータも出ており、中学校が1,227人、小学校が2,341人で、合計が3,568人となっている。

この数字というのは、市町村合併した時に比べると、31%の減少という状況である。これが令和12年にはさらに減少幅が広がって42%まで落ち込むという様子で、この時には3,000人を切る状況と見込んでいる。

今、学校の状況を言うと、1学年すべて1学級だけという小学校が、16校の小学校の中で10校あり、さらにその10校の中でも複式学級が存在する学校というのが5校ある。

また、建物自体も築40年をすでに経過して老朽化が目立っている学校が、小・中合わせて25校のうちで10校あるという状況である。

次に2ページをご覧ください。

ここからは、毎年4月に行っている小学校6年生と中学校3年生を対象にした全国学力テストの状況である。

最初に、小学校の教科の平均正答率の表である。左側に浜田市の得点、ブルーで囲んである部分であるが、概ね6割前後の点を取っている。これが県や国と比べてどの程度差異があるかというところだが、県と比較したものが赤いところで、国と比較したところが緑のところである。大体2%から6%程度、やや浜田市の子どもたちが平均よりは下回っているという状況になっている。

細かに見ていくと、基礎問題はできていても、特に記述式、読解力の弱さというものが目立つ状況ではあった。

それから、3ページが中学校の状況である。

同じように見ていただくと、国語については大体県や国と変わらない点数を取っているが、数学や理科がやはり国・県に比べて1%から5%程度ではあるものの、少し点が取れていないような状況である。

次に4ページをご覧ください。

これは浜田市の学力の状況を見るために、算数・数学に特化した表で、棒グラフが浜田市の子どもが取った点数である。右側に行けば行くほど、算数で言うと16問中16問正答があったということで、右に行くほど上位層ということになる。

これに比べて、線グラフが国や県の平均値ということになる。左側の二つが小学校、右側の二つが中学校であるが、いずれも

上の二つの表を見ていただくと分かるように、上位層で折れ線グラフに棒グラフが追いついていないという、上位層が少ないという実態がある。

それから、下がその中での特に特徴的な学校のデータを示したものであるが、小学校については、上位層も少ないということだが特に低位の子どもたちが多くという課題を抱える学校もある。

また、中学校の方では、棒グラフが二極化している。低位層と中・高位層というか、二極化している状況なども見られるところであり、この二極化と上位層が少ないというのが大きな課題と考えている。

この改善のために今教育委員会が考えているのは、できれば習熟度別にクラスを分けて、子どもたちが選択できるような制度を作りたいということである。しかし教員の配置ができない以上は、クラスが1学年に二つ以上あって、そこで上手に運用していくことができると考えているが、先ほど学校の数等をお伝えしたように、中々1学年1クラスという状況が多い中ではそうもいかないという課題を抱えている。

それとここには出ていないが、算数・数学が好きだという意識が低いというところも見受けられたので、早いうちからの算数・数学、あるいは理科も含めて、理数嫌いをなくしていくということも重要なテーマだと思っている。

さらに、この教科学力向上に向けて、デジタル機器をどう有効に使っていくかということも課題の一つだと思う。

5 ページは、このテストと並行して行った意識調査で、家庭学習で授業時間以外に1日あたり1時間以上勉強している数値を表したものである。左側の二つの表が小学校、右側の二つの表が中学校であり、上の表は浜田と県や全国との比較、下の表は、同じ浜田市の中で、暦年どう変化していったかという比較である。

これがもし浜田が優れている、あるいは暦年向上しているということであれば、この赤い矢印は右側に傾くはずであるが、残念ながら左の方を向いていて、学習時間が定着をしていないという状況が見受けられる。

次に6 ページをご覧ください。これも先ほどの意識調査と同様の見方をするが、メディアの接触時間で1日あたり2時間以上テレビゲームをしている子どもの数である。

もしテレビゲームを見る時間がどんどん少なくなっていけば、

これは時間数のデータなのでこの矢印は左側を向くはずだが、残念ながら右を向いている赤い矢印が多いというところで、唯一、中学校の経年的に見た時に少し改善傾向がみられるというような状況だった。

続いて7ページであるが、浜田市のいじめの件数のこの5年間の推移を見たものである。

合計の欄を見ていただくと、毎年少し凸凹があるので、増えているのか減っているのかという見立ては中々難しいが、令和4年度の数値に関して言うと、5年前に比べると28%増えているという状況である。

ただこのいじめというのは、客観的に見ていじめだなという判断ではなく、自らそう感じたものはすべていじめと捉えているので、捉え方が少し変わってきている。

このいじめをゼロにするというよりは、いじめの前兆を早く丁寧に見取って、そして早期に対応することが重要なので、今は先生方が見逃しをしないようにしようということを目指している。

ただ一方でSNSなど、教員や家庭から見えにくいところでのいじめというものが今顕在化してきているため、このあたりも課題と考えている。

次に8ページが、小中学校の不登校者の数の推移である。

これもこの5年間で、当初5年前2%前後から昨年に至っては3.5%ということで、大きく伸びている。

さらにもう5年前、10年前の平成24年に比べるとどうかという数字があるが、10年前は1.2%であった。従ってこの10年の間に、倍増というより3倍に増えているという状況である。

今、不登校の対応については過度の登校刺激はしないで、その子の心の発育というかそれを待つという取組がメインになっているが、そのためには家庭の外に安心できる居場所をどう作っていくかということが課題だろうと思っている。

次に9ページに、特別な支援を必要とする児童生徒の状況ということで、左の上の表が、特別支援学級に在籍している子どもの数で、この5年で4割増えている。

右側が特別支援学級ではなく通常の学級に在籍をしているが、例えば特別支援学級がいいのではという見立てがあっても保護者の同意が取れなかったり、あるいは教育支援委員会というそう

いう判定をする会議にかからないまでも、何かちょっと気になるなど教員が感じている、そのような状況のデータである。

この二つをトータルで合わせたものが下の表になるが、今 500 人から 550 人ぐらいの子どもが、そういう状況にあり、この 5 年で 3% 増えているというような状況である。

このことに関連して 10 ページに、通級指導教室の利用者数を追っている。この通級指導教室というのは、通常の学級には在籍しているものの、話したり見たり聞いたりすることに何らかの障害を抱えていたり、あるいは学習面や行動面や情緒の面で特性を抱えている、例えばじっとしていなくて教室の外に飛び出すというような子もいる。

そういう子どもたちが、通常学級にしながら時間を定期的に取り出して、そこで個別の指導をするというのが通級指導教室であるが、この利用者も、この表にある通りオレンジのところを見ていただくと、年々増加をしているという状況にある。

浜田市としてのこの大きな対応としては、教員 1 人では中々その子についていくということではできないので、学校の支援員をより多く配置をして、先生方の負担を軽減しつつ、その子どもに寄り添う人が近くにいていただくことで安全安心を守っていくという取組をしており、学校支援の配置事業の事業費が上のところに書いてある。

このうち令和 2 年から令和 5 年については、コロナの交付金ということで、コロナ対応のための加配があった。ただ、それを除いたものが実費、実質の市費ということでオレンジのところ載せている。この 5 年間でもう 7 割増強するということで取り組んでおり、当時 5 年前 2,200 万円前後だったところから今 4,000 万円弱である。決算と予算の差はあるが、概ねこうしたところに教育委員会としては力を入れてきた。

最後に 12 ページである。これが今課題となっている教職員の働き方改革である。国では超勤を月 45 時間以内にということであるが、浜田市の実態として、令和 4 年度が小学校 33 時間、中学校 47 時間という状況だった。

ただコロナの関係で色んなものが自粛をしたり中止になったりしているため、これからどう変わっていくかというのは追っていかなければならない。

対応としては、学校としては中体連の大会などを、市の予選を

やめてブロック大会にまとめるということである。あるいは浜田市としても、校務支援システムを入れたり、6月1日から留守番電話で業務終了のアナウンスを導入したり、それからさらに、今部活動の地域移行についても検討を始めている。このようなところが今の学校教育を取り巻く浜田市の現状である。

久保田市長

この後の進め方だが、最初に今説明があったことに対してご質問とか確認があればお尋ねいただきたい。

そのあと各委員さんから、これをご覧になって、どの項目でも全般的な話でもいいが、何かご意見があれば承りたい。

その後、今年度取り組むことについてまたご意見を伺いたいと思う。最初に今の説明について質問とか確認したい点があればお願いをしたい。いかがか。杉野本委員。

杉野本委員

1ページ目のところの、児童生徒数の数字についてだが、平成17年度から22年度の5年間で、市町村合併後、15%も一気に減っている。その後、25年度ぐらいまでのところで学校統合が進んでいったと思うが、今後、令和7年から12年にかけて、17年度比では42%ということだが令和7年から12年の減り方を見ると、特に小学校がかなり割合的には減って、小学校が21%、中学校が5%ぐらい減っている。

小学校が減るということは、それに引き続いて数年後には中学校もどんどん減っていくということになり、児童数がかかり減っていくということが見込まれる。

それを考えたときに、もろもろそれに対応していくため、どこかで見直していく必要があるのかなという気がするが、そこらあたり、何か見通してみたいなものがあつたら聞かせていただきたい。

久保田市長

ちょっと関連するが、まずこれの推計、令和7年、12年の頃の推計データは、どなたがやったものなのか。推計の仕方はどうなっているのか。それも併せて聞かせてほしい。教育委員会で推計したということか。

山口課長

毎年、ちょうど5月の下旬に、県教育委員会に出す推計値というのがある。実際に生まれた子をスライドする形で推計をとるが、あくまでも推計値なので、例えば市内の雲雀丘小学校のように、特に県の官舎とか色々な国の官舎とか、異動が多い学校もあるが、あくまでも現時点で浜田に在籍している子どもの数をスライドしていったらこういうふうな人数になるという推計値を作

っている。

久保田市長

だから転勤だとか何とかではなく、出生数をベースにして、出生した子が7年経つと小学校1年生になるので、そういうふうに積み上げたら大体こんな感じになりますよという、そんなイメージか。

山口課長

はい。

岡田教育長

特にこの数年、出生数が300人を切るような状況で急激に落ちているということもあるので、これから先小学校の児童数というのは、この状況が続くようであれば、この推計以上に落ちる可能性もある。

その対応をどうするかということだが、去年の10月に小中学校の統合再編計画を作って、ようやくこれに基づいて地域や保護者の同意をいただいて、雲雀丘小学校、第四中学校が統合ということが決まった。本来統合計画は大体10年ぐらいのスパンで考えていくが、これから先10年後でいいかどうかということになると、それはもうちょっとスピード感を持って考えていかなくてはいけないのではないかと私見ではあるが思っている。

杉野本委員

コロナ禍の関係ですごく出生数が減っているというのは、一時的なものなのか、それともその反動で増えるのか、その辺がちょっと見通しが立たないところではある。

久保田市長

実はちょうど今週は明日中国市長会があり、私が会長をやっているのだが、今、全国の市長会でも最大のテーマがこの少子化である。岸田総理大臣も、おそらく来月6月には次元の異なる少子化対策を打ち出すみたいなことをおっしゃっているが、期待している反面、本当に少子化対策を打っていただけののかなと思う。実はこの問題の裏には財源の問題がある。だから手厚い支援をすればするほどお金が必要になってくる。

明日の市長会ではそこが大きな問題になって、国民の皆さんから見るとなるべく負担を増やしてほしくない、一方少子化対策はしっかりやって欲しいというある種矛盾する思いがあろうが、そんな中で果たして国がどういう舵取りをされるのか、また我々市長会としてはどうすべきか、こんなことを議論しようと思っている。

私の個人的な感想も含めて言うと、コロナで今浜田市の出生数がこの3年間でガクッと減って、去年が283人である。その前が290人台で、300人を下回ってきている。その前の段階が350人

ぐらいいたところがガクッと減っている。

これが、少しは世の中コロナが落ち着いてきたので出会いや結婚が増えて持ち直す部分と、もうこのままずっと増えない部分と、どっちがどうなるのだろうかという、これは本当に分からない。

個人的見解でいうと、多少持ち直すけれど大幅には持ち直さない、横ばいかちょっと微増ぐらいかなというふうに感覚的には思っている。

国が本当に、もう大胆に、フランスやスウェーデンがやっているみたいな大学生まで全部国が面倒見ますよというようなことをやれば、少子化に多少歯止めがかかるのかもしれない。しかしそれには膨大な予算が必要で、国民的コンセンサスがどの程度得られるかという問題があるので、そこまではきっと出来ないだろう。

そうすると残念ながら、フランスやスウェーデンが急回復したような、そこまでの回復はないのかなと個人的な見解としては思っている。

あとご質問、確認があれば。倉本委員。

倉本委員

5 ページの意識調査だが、勉強時間、普段 1 日当たり 1 時間以上勉強しているかというところで減っているということだが、例えば質問紙の中に、読書の時間も別に調査が入っているのか。

あるいは、家族と話し合いをするような時間というような調査も入っているのか。そういうところをお伺いしたい。

鳥居室長

読書については出ている。学校以外ではなくて、家庭でどれぐらい読書しているのかという質問も出ている。残念ながら会話の部分については出していない。

久保田市長

読書の時間については、勉強の時間と同じように減っているのか。勉強が減っているから読書は増えているとか、そういう傾向はないのか。

鳥居室長

変わらない。

倉本委員

もう 1 点、同じように 6 ページのメディア接触で、下のグラフで言うと右側の中学校の接触時間が多少減っている。その減った時間というのはどこへ回っているのか。

鳥居室長

どこだろうか。

倉本委員

勉強にはあまり回っていないのか。

鳥居室長

メディアに回っているかもしれない。トータルして色々なことを考えなくてはいけないと思うが、子どもたちは何をしているか

	<p>といたら、部活動もあるだろうし色々なことが入っているので、どこへ回ったかと一概には言いづらいところはあるかと思う。</p>
杉野本委員	<p>スマホはメディアに入るのか。</p>
鳥居室長	<p>はい。</p>
岡田教育長	<p>子どもなので、テレビゲームをしますかという質問であれば、その後でネットを見ている時間はもしかしたらテレビゲームの時間に入れていないかもしれない。</p>
杉野本委員	<p>友達とのメールやりとりとか。</p>
岡田教育長	<p>そういったところもあるかもしれない。</p>
久保田市長	<p>教育長の指摘の通りだと思う。質問がテレビゲームをしますかと言っているときに、スマホは入れていないのではないかと。スマホでテレビゲームをやればそれはゲームと言うかもしれないが。これは国が作った設問だったか。</p>
鳥居室長	<p>はい。</p> <p>括弧がついてはいるが。テレビゲーム等しますかとあるけど映画を見るときかそういうのは除きますとか、データ、いわゆるスマホで映像を見る部分とかそういうのは除きますという形で出ている。</p>
岡田教育長	<p>だから、映画とか映像を見たりとか、チャットやLINEとかそういうのはむしろ増えているかもしれない。</p>
倉本委員	<p>それは予想できる。</p>
久保田市長	<p>子どもたちが将来なりたい職業に YouTuber が上位で上がってくる。YouTube というのはこれでいうとテレビゲームに入らないわけである。だから広い意味でのメディア接触時間というのは、もっともっと多いのではないかと思う。</p>
倉本委員	<p>承知した。</p>
久保田市長	<p>他にご質問、ご確認はないか。花田委員。</p>
花田委員	<p>8 ページの不登校者数は、条件が 30 日以上というのでよいか。</p>
鳥居室長	<p>はい。</p>
花田委員	<p>例えば、基本的には行っていないけれど、20 日ごとに 1 回行けば、ここに乘らないということか。</p>
岡田教育長	<p>年間 30 日以上欠席をした人を不登校ということで扱っているため、入っている。</p>
花田委員	<p>続けて欠席したという意味ではないと分かった。</p>
岡田教育長	<p>ただ、今おっしゃるように不登校傾向の方も増えていると思っ</p>

- ているので、ここに現れてない数字というのはあると思っている。
- 久保田市長 私から質問して申し訳ないが、2ページ目と3ページ目に学力調査の県平均との比較がある。いつも思うが、浜田市と島根県の平均というのを比較しているが、例えばその島根県の西部の中では、石見地方ではほぼ同じなのか、浜田市はそれより下回っているのか。
- 岡田教育長 島根県の平均というが、人口的に言うと3倍ぐらい松江・出雲の方が多いので。そこら辺は分からないのか。
- 鳥居室長 まず県の全体のデータと市のデータというのはその市に届くが、他市のデータまではいただけていないので、それを市別に比較をしてどうかというのは基本的にはわからない。その辺り鳥居先生、補足いただけたら。
- 久保田市長 浜田市のホームページで調査結果の概要を分析したものを公表しているが、それがネットで検索をして見ることが可能である自治体については比較ができる。
- 久保田市長 東部と西部との、何というか学力差みたいなのはあるのかなという感じである。
- 杉野本委員 それではこれをご覧になって、それぞれの委員の皆さんからご意見等があればお願いしたいと思う。こういった点が問題ではないかとか、あるいはこういった点についてもっと力を入れるべきではないかとか、色々あろうかと思う。
- 杉野本委員 これについては申し訳ないが杉野本委員から順番にお願いしてよろしいか。
- 杉野本委員 3ページの中学校の教科の平均正答率について、確かに県や国との差はあるが、一番下の黄色い横書きで書いてある部分を見ると、前回調査よりも、国語も数学も理科もグラフの結果が伸びている。マイナスであり低いけれども、それぞれに少しずつ伸びてきているということは、中学校は頑張っているなというのがここから伝わってくる。
- 杉野本委員 2ページの小学校の方は、国語が若干下がったり、算数理科も-1.0ではあるがちょっと国や県との開きは小さくはない。
- 杉野本委員 そうなってくると小学校が中学校ほど伸びていない。今後の学力の方向としてはちょっと懸念されるなというのが成績からも見える。
- 杉野本委員 それから、先ほどの家庭学習の状況にしても、中学校はテレビ

ゲームをコントロールして、それが勉強に向いているかどうかは別として改善の方向であるが、逆に小学校は、年ごとに家でも勉強せず、テレビゲームが増えているという。これをどこかで修正していかないと、中学校に行った時に、この傾向はさらに進むのかなと思う。

いじめの件数にしても、児童生徒数は減っている中で、その実数の対比は増えているということは、実質、1人当たりの割合はさらに高まってきている。

不登校も同様のことで、小学校から中学校に向けてこれから大きくなっていくところで、中学校になって頑張ったのか、小学校からのついで頑張れたのか、中学校での取組が良かったのか、色々な事をもう一度検証してみる必要があると感じた。

特に伸びが良かった学校について、こんな成果が出てきたんだというところが見られたらいいなという気がする。

4ページだが、上の段は市全体、下の段がA小学校、B中学校とある。極端な学校については習熟度別という話もあったが、やはりしっかりと手を打っていく必要がある。

ただ、鳥居室長から以前いただいた学力調査の結果を見てみると、領域別では、いわゆる計算だとか漢字あたりは一番国や県との差が低いところだった。ということはその辺の基礎的なところは学校も大事にしたり、子どもたちも大事だと思って勉強したりという気持ちは何か出てくると。

ということになると、実際に思考力を深めていく、そういう授業構成自体を面白くして行って、子どもの追求力を深めていくところが、先ほどあった算数が好きだ、数学が好きだという子を作ることに繋がっていくのではないかと思われる。

今、鳥居室長中心に一生懸命子どもの声で作る授業をいうのをやっておられる。絶対これは実を結ぶと思う。

今の取組を大事にしながら、特に極端なところはその前段階の準備運動としての基礎学力をさらに充実する、何か一つ大きな力強いことをする。

自分も現場にいるころには、5年生でも掛け算九九がしんどい子がいっぱいいるクラスがあった。そのため授業の最初の5分間で、掛け算九九の100マス計算をみんなで作ろうと言って特訓した。それでも中々すぐには身につかないかもしれないが、出来なかった分はずっとそれを後々引きずっていく。

さっき花田委員と話していた中で、高校生ぐらいになっても掛け算九九からやっているような子もいるということだったが、やはりそれが分からないとずっとしんどい思いをしていき、算数なんか大嫌いとなるのは当然のことである。

本当に基礎的なところからしっかり身につけてやる必要があるで、今、市教委が進めている授業づくりで算数・数学好きにするようにやっていけば、家でもちょっと勉強しようかなという気持ちも増えていくだろうし、やはり授業が楽しいということが家庭での学習に繋がっていくのではないかと感じている。

久保田市長

ありがとうございました。

とりあえず委員の皆さんから意見を言ってもらって、後で教育委員会からそれぞれコメントなり今こんなことやってますとかをお聞きするというところでよろしいか。

委員方

はい。

久保田市長

続いて、花田委員にお願いします。

花田委員

こういう形で全体的に見てみるとなるほどと思ったが、どれにつけても、今教員不足というところが一番の原因だろうなと本当にすごくしみじみ感じた。

手厚ければ大方の問題はクリアできるはずだというところが一番に思ったところで、現場もああしなさいこうしなさいとか、こうしたらいいよとかそんなことは分かっている、本当にしたいけれどもそこまで回らなかつたりとか、実際本当に現場が苦しいということが一番の原因だろうと、むしろ客観的に見てすごく感じてしまった。

そこの大元の問題をどこで解決するものなのかというところは、ここだけの場所では話せないことかもしれないが、まずはそこが一番あるよなというのを感じながら見ているところである。

一つ一つについてこんなふうにしていけばというところも感じるが、全体的に今教育委員会の方でも、それこそ入学式や卒業式に行っても、保護者の皆さんにも、子どもたちは地域でぜひ育てましょう、地域にどんどん出ていきましょうという方向を結構積極的に出していると思う。

やはり学んでいくとか色んな力がついていくのは学校だけのものではないというところもありつつ、この数字も見えていかないといけないなというところはすごく感じている。

メディア接触に関しても、それこそゲーム、YouTube とか、と

にかく家でこもって自分だけの世界にいるものなのか、外で誰かと出会っているものなのかはすごく違うと思う。ゲームは駄目駄目と言うのではなくて、そういう暇がないぐらいのもっと違う過ごし方を、地域を挙げて子どもを取り巻いている環境として作っていかないといけないということを感じた。

不登校に関しても、全員が家にこもっているのがこの127人なのかということそれはどうかとっていて、隣の家のおじさんのところに行ってお話をしているかもしれない。それはすごく理想なのだが。この子について、誰が、責任が持てる大人が周りにいるのかという状況が、各学校でも私たちも把握しておきたいなというところがある。もちろんその事業所や施設も繋がっていると思う。

完全に家族だけで回っていて、もうどうしようもなく、家の中で布団をかぶっているということなら本当にどうしましょうと思うが、やはり将来、どういう学校時代を過ごしたとしても、色々な理由で学校に行かない状況があったとしても、学校の時代が終わった後に社会に出て働いて、世の中の役に立てる大人になっていくのであれば、それはここの道をどう過ごしたかどう通ったかというところはどのような形でもいいかもしれないという気持ちはある。今、本当に多様化しているので、子どもの特質も本当に様々なので、それに合った学びの場所は学校だけでもないんだろうなというのも同時に今感じている。まとまらないが以上である。

久保田市長
倉本委員

ありがとうございました。続いて倉本委員にお願いします。

中々まとまらない話をするかもしれないが、学力向上を中心にちょっとお話をさせてもらう。当然皆さんご存知のように色々な要素があって、教員の力、それから生徒の持っている力、それから家庭が持っている力。その三つだけかということその中にも色々あって、教員の授業力とか、授業力とはまた別にクラスをコントロールする力、バイタリティーとか、あるいは子どもに対して夢や目標を語れる人であるとか、そのようなものが揃っているか。

非常に難しいかもしれないが、例えば生徒が夢に向かって進んでいこうという意欲が持っているか、こう言うと語弊があるかもしれないが親が子どもをちゃんと指導する力があるか、というような色々な要素が絡み合っていて、どこから手をつけていいかわからないということだろうが、例えば1点突破を図るのであれば、今

学力向上推進室の方でタブレットドリルをそれぞれのレベルに応じたものが使われているのであれば、それを中心に家庭学習をやってくださいと、そういうのをどんどん強化していかないといけない。大変申し訳ない言い方かもしれないが、作りましたよ、はい使ってねと学校に投げているだけでは多分使わないだろう。

さっき花田委員も言われたように、それで引っ張っていくという形は強引にやって欲しいなと思う。

ただ、推進する方も、おそらく校長を指導されて、校長がまた学校に帰られて教員を指導されるから、そこら辺に熱の入れ具合が多少あって中々難しいところかもしれないが、そういう手段を使って進めていくということがいいかなと思う。

先生方が大変だというのは非常によく分かっていて言うのだが、そういう気概を持った先生方がおられるといいなと思う。

最後に一つ ICT の活用だが、小学校であるいは中学校でどの程度やっているか分からないが、思考、判断、表現力というのが中々つかないという話があった。

今、私が退職して 10 年ぐらい教えている中で、どんどん ICT 化して、高校生の中にどういう力が欠けているかという、やはり今言った思考、判断、表現力がどんどん欠けてきている。

なぜかという、視覚で判断してそれで終わってしまう。表現をすることが、どういうデータを集めてどういうことが考えられるか、どう表現していくのかという力が逆にどんどん減ってきていると感じている。そこら辺は気をつけて使っていかないといけない。

いわゆる指導要領に掲げている目標とは逆に離れてくる恐れもある。我々、いわゆる高校の教員もそういうことを意識しながら指導に入っているというところで、一応情報提供ということでお話をさせてもらった。以上である。

ありがとうございました。続いて岡山委員にお願いします。

いただいたデータは、全体の様子を俯瞰できる形になっていると思った。この中に隠れているのは、先ほど花田委員も言われたが、本当に子どもたちが置かれている状況は多様化しているので、この中の何%かのデータの中にも、色んな状況の方、色んな家庭の子がいて、色んな地域に囲まれている子がいて、それぞれの学校で力を出した結果が今ここにあるのだろうと思いながら見させていただいた。

久保田市長
岡山委員

本当にそれぞれ個の置かれている状況が集まって、データで見るとこのような形になっているのかなと思うので、あくまでもデータを平たく見るとこうなのだが、本当に子どもたち一人一人が置かれている状況がどうなのかというのが本当は分かるといいなと思いながら見させていただいた。

先ほどからも子どもを地域で育てるという話があったが、果たして子どもたちに背中を見せられるように大人たちが学び続けられる地域になっているのかなというのは、普段の生活をしていてちょっと私も恥ずかしい限りだが、中々そうならないのではと思っている。

例えば、先ほど読書の話も出たが、ご家族が本をたくさん読まれるようなご家庭なら本が家の中にたくさんあるだろうし、そういう姿を見ている子どもたちはもうそれが当たり前として育っていくのかなと思う。ご家族の方が今も継続して何か自分がやりたいことに向かって勉強しているとか、そういう姿を見ていれば、大人とはこういうものが当たり前であるというのが子どもたちに入っていけば、自動的に僕も学ばなきゃ、私も学ばなきゃとなるのではないかなと思うので、大人たちが学びを止めずに勉強し続けている姿、学び続けている姿を見せられる地域がやはり強いのかなと思った。

この前、教育委員会の会議の時にちょっとお話をしたのだが、親がどういう背中を見せているかによって全然子どもたちの見ている世界が変わってしまうと思う。例えば先ほどのメディア接触の中でも、家庭の中でお父さんお母さんがずっとスマホを見ていませんかとか、YouTube 見ていませんか、ゲームをずっとして子どもに構っていないことがありますかということもあると思う。無言の指導というか、そういうことに繋がっていくのではないかなと思うので、私は、子どもたちにアプローチをかけるのももちろんだが、やはり保護者の方にも今の子どもたちが置かれている状況がこうで、こんなふうの子育て事情は変わってきているというものを、何かこう上手く自然と生活の中に取り入れられるような形にならないのかなと常々思っているところである。

浜田市は、それこそ音楽の町ですというのがありますが、この度は野球のコーチが来られた。そうやってすごい人に会う、こういう人になりたいという人がいることが、子どもたちの何かしようという動機になると思う。

例えば数学の著名な先生が、数学ってこういうふうに使われているんだよという説明をしていただける機会があって、「すごい、数学ってこういうことに使えるんだ、すごく役に立っているんだ」というのを目の当たりにするとやはり違うのかなと思う。

以前、数学を使って、多分何か保険の料率を計算しているような方のお話を聞いたことがあるが、その際に子どもたちが目をきらきら輝かせて、「そうなんだ、数学ってそんなことにも使われているんだ」と話を聞いていたので、色んな分野のエキスパートの方々を、勉強の分野のところでも何かお話をさせていただくような機会があると少しでも動機づけになるのかなと思う。

以上である。

久保田市長

ありがとうございました。

多岐にわたって色々皆さんからご意見があって、今、教育委員会の皆さんは肩にズシンと重荷を背負っているのではないかと。

教育長、教育部長、どなたからでも何かご意見や、現在こんなことをやっているとか、こういうことに取り組もうとしているとか、そこら辺の説明をお願いできないか。

岡田教育長

基本的には、今あるデータに対して、課題というところを見つけたところについては何らかの手だてを立てようということと動いていく。

その分析もきちんと学力向上推進室の方でやっていただいているし、杉野本委員もおっしゃっていただいたように、方向感としては今の取組について委員さん方から評価もしていただいていると思っているので、これを継続する。

それからタイムリーな時にやっていくというようなことをもう少ししっかり考えていく必要がある。

私としては、色々あるが何に力を入れていかななくてはいけないかということ、やはり教員の働き方改革だと思っている。

今本当に先生が年度当初に配当どおりに入れられない。教員不足で欠員まで出ていないまでも、常勤を入れなくてはいけないところに非常勤を入れている。

県もそれを何とかしなくてはいけないということで教員採用試験なんかもやるが、その倍率もどんどん、どんどん下がっていく。

私が前に教育委員会にいた時から、先生の粘り強さをものすごく感じていた。本当にここまで細かなことまで対応されるのかと

いう思いをずっと持っていたが、最近ちょっとしたことでしんどくなってしまう先生方も多い状況などを見ていくと、やはり先生方が本来自分がやりたいことに向かっていくための時間を捻出するためにも、働き方改革を本気でやるのが一番大事だと思っている。

それは、先生が楽になるのではなくて、その力を授業力の改善だったり、生徒指導だったり、そこに向けてもらいたいからである。教育委員会は今、行政の職員もいれば、学校現場の経験者にも来ていただいてそのバランスの中で教育政策を考えていくが、私は、基本は子どもたちの、少なくとも学校で色々な育ちを学ぶために学校の現場にいる人に力を発揮してもらうのが一番だと思っている。

教育委員会はそのための環境整備に全力を尽くしていこうと思えば、やはり働き方改革だと思っている。今年度、校務支援システムを入れていただくことが決まってこれも大きな投資だが、まだまだやらなくてはいけないことがあると思っている。ただやる以上は、先生方も甘えないで、本来のところに全力を挙げただくと、そういう連鎖の中でやはり子どもたちも力をつけてくれるのではないかという思いが、総体的なところでもしている。

それと、今日は学校教育のことについて話をしたが、岡山委員にしても花田委員にしても、少し社会教育的な視点で子どもを育てるということも大事だとおっしゃっていただいたと思う。

私もそれは本当に大事だと思っている、事あるごとに子どもたちを地域に出すように背中を押して欲しい、親も子どもと一緒に出て欲しいということをお願いしている。

これもやはり子どもたちが地域に出て活動して認められて、それがまた子どもたちの活力になっていくと、勉強に向かう力も出てくるのではないかと思っている。

方向としては大体教育委員の皆さん方の総意をもって進められているような感触はあるのだが、具体的にこれがというところまで辿り着けているのかというところと難しいところがあるかなというのは実感している。

久保田市長

先ほどメディア接触について色々対応されているようだったので、ちょっとご披露をお願いしたい。

鳥居室長

先ほど社会教育という話が出たが、はっきり言ってメディア対

応は学校がすべきことではない。保護者対象の講演会も学校はたくさんお金を使って予算を立てて講師を呼んでやっている。これは保護者啓発のためということで学校がやっているわけだが、本来は社会教育がやるべきことだろうと私は思っている。

先生たちがそういうところにどんどんエネルギーが取られていき、本来やるべきところに力が入れられないということが起きている。メディアのことだけではないが、そういうことが起きている。

だから昨年度の終わりぐらいから校長先生方、あるいは学校の研究主任、教務主任と年度末にすべての学校で話をしているのだが、そこで話しているのは、学校がやるべきことは、子どもたちが計画を立てて自分からちゃんと家庭学習をしようと、そういう力をつけていくことが学校がやることだと。

実際に実践するのは、家庭に帰っているわけなので保護者がやるべきこと。そこまで足を踏み込み過ぎていないか。メディアについてもそうではないか。

メディアの危険性等は、教育課程の中にあるわけなのでそれは当然学校で教えていかなければいけないのだが、本当に先生が熱心に、メディアがどれだけどうかというデータを子どもたちのチェック表を使って出しているが、本当にそれが先生たちのやることですかということである。ちょっと家庭学習の方へシフトをおいて、メディアのところはそれで付随して改善していくような方向にしませんかという趣旨の話をしている。

色んな面で、先生方が本来やるべきことじゃないところにいっぱいエネルギーを持って行かれているというところが一つ課題になるのだろうと思っている。

先ほどの教育長が言われた働き方改革というところも、保護者対応等々も含めてどうなのか、多分ものすごいエネルギーを使われているので。精神的に病んでいく先生たちというのも、保護者対応のところでも病んでいく先生たちが多い。

そこら辺の上手な線引きは、各学校、校長先生のリーダーシップもいると思うが、そういう方向感で、本当に本来やるべきところに力を入れていくという方向にシフトできたらいいなと思う。

従って我々が本気で今やっているのは、授業改善をしっかりとやってくださいという方向性は出しているなので、それで訪問指導をしっかりと、一緒に授業も考えていくということでやってい

久保田市長

る。まとまらなかったが以上である。

まず、先ほどの花田委員からのご指摘の中で、一番の根源的な理由は教員不足があると。それから今働き方改革という言葉も出ているが、これが一番の原因だとすれば、校務支援システムを入れたからといってそんなに改善しないと思う。少しは改善するかもしれないけれど。

そうすると、大きく方向感は二つしかなくて、一つは教員の仕事を、今鳥居室長から話があったが、もう1回見直しをしてこれはやらないと。やらないことを決めて、もうこれはやらないとか、要するに本当に減らす。

数を減らす努力をするか、あるいはもう一つは、それが減らせないのでしたら先生を増やすか、そのどちらかしかないのだろうと思う。

増やすとなったら、少なくとも小中学校は県が教員予算を持っていて県が配置をしているわけだから、浜田市長が、例えば市がお金出すから市が採用しますというのは、今のシステムでは出来ないのだったか。

岡田教育長
倉本委員
岡田教育長
久保田市長

市が採用すればできる。

できると思う。

ただ、増やそうと思っても免許を持っている人がいない。

増やすといっても中々人もいないということになったら、お金の問題もあるし、そもそもそういう該当の人がいらっしやるかという問題もあるので、もう一つの、もっと徹底的に先生の負担を減らす。言い方を変えればやらないことを決めるとか。

杉野本委員

働き方改革について、現場にいるところに、「掃除は毎日しなくてはいけないうか」という話から、授業数も増えて職員会議をする時間も減らさなくてはいけなくて、では掃除をやめたら職員会議の時間取れるねということになって、1日掃除をしないうを作った。

そうしたら子どもは早く帰るし、会議の時間は何とか確保できる。そのうちに、掃除を週に何回かしないという学校も多分出てきている。

教員といわゆる官公庁の違いは、1時間の休憩時間がたっぷりとれるのが官公庁、教員はあるようなないような、昼食時間も、必ず何か起きないか気を張っていなくてはならない。

休息时间すら、子どもが喧嘩したら対応するので、トイレに行

けなくて膀胱炎になりかける先生も出てくるというのが現場である。

いわゆる時間延長だけじゃなくて、休憩すら落ち着いて取れないとなった時に、例えばもう掃除はやめる、給食の準備もやめる、では誰がするかとなったときに、例えば市の方から、給食費を出しますから、子どもの給食を準備してあげて、給食を食べて帰ってくださいとか、ついでに片付けと掃除までやって帰ってくださいというような、地域のどんどんこれから増えていく高齢者の方々に協力をお願いして、そこは任せて、先生は休憩したり、やりたい先生は丸付けやったりすると帰る時間は早くなるかもしれない。

そのようなことを思い切ってやってみるのもいいのかなと思った。富山だったか福井だったか、もちろん掃除によって育つというところもある。当然育てる部分もあるのでそれはそれでいいが、時間を作る、削るとなった時にそういったところを外部に委託すると言ったらおかしいが、ボランティアさんに頼むとか。

そうすると、授業中に掃除してもらってもいいと思う。一生懸命自分らがいい加減に使ったところを地域の人がきれいにしてくれるんだと思ったら、壁を蹴ったりするものなんか悪いなという気持ちになったりとか、そういう働く姿、それこそ地域の人、大人の後姿を見てもらう場を、もうこっちから作るのもいいのかもしれない。

高齢者の方も、何か子どもや地域に貢献したいというのが確かまちづくりのアンケートにもあったのではないかと思うので、医療福祉、そして子育てみたいなのをしたいという願いも叶えられるのではないかと思う。

ただ、完全ボランティアだと気の毒なので、給食費ぐらい出しましょう、でもいいのかなと思う。

久保田市長

今、杉野本委員からのご指摘のことは、やろうと思えばできると思う。そういった、どうすれば先生の負担が減るかという部分を、教員を増やす、加配するとなるとお金の問題もさることながら、該当の先生がいらっしゃるかという話になるが、例えば給食の部分とか掃除の部分を、これが負担になっているということであればそれを外出しする、ではそのお金をどうするのかとなるとそれは市長部局で面倒見ますよと。約束はできませんが。

例えば考え方として、それで先生の負担を減らすと。部活動の

指導を外部化するのも同じような話である。

いずれにしても、先生の負担が大きいというのが一番の原因だということであれば、もっといかに減らせるかを考える。

では減らす部分をどうカバーするかというのは、これは次に考えなくては行けないが、それはしっかり教育委員会の方で逆にこうして欲しいという、例えば市長部局の方からそのための予算を別枠で5,000万円取ってくれとか。それで本当に改善できるのであればやったらいいと思っている。

いずれにしても、先生たちの負担は校務支援システムを入れただけでは悪いけどそんなに大きく減らないような気がする。

それからもう一つ岡山委員からもあった、親というか家庭での話だが、子どもにメディアをあんまり使うなど言いながら親が一生懸命スマホをいじっていたりすると、子どもだって真似る。

社会教育というか家庭教育というか、これは市長部局の仕事となるか。

岡田教育長 まちづくり社会教育課ではあるが、教育委員会の兼務発令もしているのでこちらとも言える。

久保田市長 もう親に、子どもの前ではスマホをいじらないようにしなさいと市長としても言いたいけど、中々難しい。確かに子どもにやめろと言いながら親が一生懸命やっていたら良くない。

岡田教育長 何か強いメッセージを発信するようなPRの仕方があって、見てもらうというのはあるかもしれない。

よく広報でも本当に、こんなのやっていたのかみたいな広報をして、それが反響を呼ぶということがある。そういうのを考える手はあるかもしれない。

久保田市長 子どもに何時から何時まではメディア使うなど。その時間は親もしないとか。そういうのをPTA 联合会かなんかで申し合わせることができないものか。

鳥居室長 ノーメディアの2週間があつて、その中で親も一緒にやりましようと言ったら悲鳴が上がっている。中々定着しないというのが学校の声である。そこまで思い切ったことをやる学校はたくさんないが、実際には中々親の協力が得にくい。

久保田市長 さっきから出ているような教員の働き方の問題、それから家庭での問題、全国あちこちで同じような悩みを持っていると思う。

そうした中で、参考になるような、真似したくなるような、いい事例があるのではないか。

杉野本委員

学力調査ですごく高い成果を出している、さっきの北陸の福井だとか富山とかは、山陰と条件的には近いところがあると思うが、大きく違うのは3世代の家庭が多い。おじいちゃんおばあちゃんが非常に子育ての応援に入っている。

スマホにしても、やはり保護者も働きながら子育てもし、家事もしとなると、お父さんお母さんが協力し合っても一番しんどい時だと思う。そこを祖父母が応援するという体制が非常に助かるのではないかなと思う。

実際自分の子どももそれに近いことをやっていて、祖父母の応援で何とかやれている。それがなければやはり親としてはしんどいというところが出てくるのではないかな。

そうすると、それがしやすい環境というのは、まず土地が狭いので3世代が住めるような広い土地を安く作るのが難しいのならそこを何とかするなり、いわゆるひとり親だとかそういうところに子ども食堂みたいなのを作って、その辺がしんどい人が多い地域ではそういったところで応援ができればよい。

保護者でご飯作る暇もないなら、応援できるような体制を地域が作るとか、そういうことで支えていく、地域が子育てを応援しているよというメッセージが行くと、親も余裕を持って子どもにあたれると思う。

そうすると、いわゆる虐待とかそういった部分が減ってくるかもしれないし、子どもも親には言えないけどおばあちゃんには話ができるという子がもし出てくれば、それが吐き出し口になっていけば良いと思う。

今、子ども食堂は下府だけか。

いや、港町の方でもある。

4ヶ所から5ヶ所ぐらいある。

しかし毎日やっているわけではない。月に1回ぐらいしかやってない。

そろそろ予定の時間になるが、今日委員から色々ご指摘、意見等もあったので、教育委員会の中でもう1回考えていただいて、何に優先度を高くつけて取り組むか。

今日の話を知っていると私が思うにまず教員の負担を軽減するにはどうすればいいか、ここをまず一つ大きな切り口としてどうすればいいのか考えなくてはいけない。

それこそ次元の異なる発想で何かしないと。減らさないから減

久保田市長
岡田教育長
久保田市長

- 岡田教育長
らせないかもしれない。
今ちょうど校長会と働き方改革のためのワーキンググループを、教育委員会も交ってやろう、すぐ働きかけて欲しいということで、ちょうど指示を出している。そこで現場から上がってくる生の声にどう対応するかという対応策を、例えば予算がかかることであってもいいからまず挙げようというスタンスでいきたいと思う。
- 久保田市長
先生方もやはり予算を気にしておられ、今の手のうちの中で何とかできることをという考えになってしまっているので、できないは別にして、ちょっと大胆なことを聞いてみたい。
親御さんにも、あまり学校の先生に文句を言わないようにしていただきたいというか。何か最近そういう親御さんも多いようにも聞くので。
いずれにしても先生方のご負担を減らすためにはどういうことをやらないといけないのか。社会に対しても呼びかけしないといけない部分もあるだろうし、そこら辺を色々考えて、また現場の皆さんの声も聞きながら、できるところからやっっていこうということをお願いをしたい。
そのほか学力とか色々な点があったが、それはそれで取り組んでいかないといけないと思う。
- 岡山委員
先生方のご負担が本当に大変だというのは、親の側からしてもそれを感じる場所である。さっき浜田市で教員の採用はできないのかという話があったが、例えば浜田市が日本一教員が働きやすい町です、みたいなのを掲げてそれに向かって邁進しているイメージがつけば、浜田市採用だったら浜田市で働ける先生がおられると思うので、突拍子もない考えだが、そういう考え方もあるかもしれない。
- 久保田市長
私は前々から、浜田市で採用は難しいかもしれないが石見部だけで採用するというのはありかなと思っていて。
特に東部から来た人が、何年か浜田にいてまた戻らないといけない。土日も戻りたいという。そうすると週末の子どもたちの部活動の指導等にも影響がある。だから石見採用だけはありかなと思った。浜田市採用となると、各市町が独自の採用ということになり、難しい。ただ石見部だけの採用はありかなと思う。今でも一部石見枠はあると思うがあくまでも一部なので。
- 杉野本委員
ふるさと教育でも、やはり地元を知っている人が進められるの

久保田市長 は強みだと思う。

私の中学や高校のころは石見部出身の先生がほとんどだったような印象があるが。ふるさと教育の観点からも、これは大きな課題なのでちょっと置いておく。

まずそういうことで先生方の働き方改革、そのためには何が問題でどうすればいいかというのは教育委員会も考えて、市長部局でも応援しないといけないことがあったら一緒になって考えたいと思う。おそらく最後、お金をどうにかしてくれという話になるかもしれないが。

色々話が尽きないところであるが、今年度のこの後の総合教育会議のテーマについて、事務局の方で何か考えている部分があったら、お願いしたい。

草刈部長 第2回の総合教育会議のテーマとして考えているのは、ICT機器を活用した授業を視察してその後意見交換をするという形で、具体的には令和4年度、5年度の浜田市ICTを活用した授業改善研究指定校である美川小学校の授業を実際に視察して、その後ICTを活用した教育の推進、また可能性について意見交換をするというようなことを考えているがいかがか。

久保田市長 それで皆さんよろしいか。

委員方 はい。

久保田市長 その際に、また今日ちょっと言い忘れたことがあるとか、ご意見があればまたお聞きするというので、次回はICT機器を活用した授業視察を美川小学校で行いたいと。学校に行く格好になるのか。

草刈部長 はい。

久保田市長 それではそういうことで予定したいのでよろしくお願ひしたい。日にちは決まっているのか。

草刈部長 7月10日で予定している。

久保田市長 7月10日ということだそうなのでよろしくお願ひする。

以上であるが皆さんの方から何かあるか。

委員方 なし

久保田市長 それでは以上をもって本日の総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

終了 16 : 22